

これからの維持管理を考える

JCI中部支部がフォーラム

日本コンクリート工学会（JCI）中部支部は15日、富山市のタワー11で、「これからの維持管理を支える技術と人材を考えるフォーラムIN富山」を開いた。共催は北陸三県コンクリート診断士会、北陸SIP、日本技術士会北陸本部富山県支部、インフラメンテナンス国民会議。

診断士や産官学民の担当者、大学生ら230人



診断士、維持管理の担当者ら230人が参加したフォーラム＝富山市内

が参加。冒頭、JCI中部支部調査研究事業委員会の石川裕夏委員長が、「北陸のコンクリート構造物が置かれている環境は、全国でも最も過酷であり、早くから診断士会が設立。3県の診断士会では、共通する維持管理の技術的課題の抽出や我々のこれからの社会的役割を見い出す事業を展開し、北陸SIPとの連携で人材育成、新技術の地

域実装の取組も進めてきた」と説明し、「4月に金沢で人材育成、11月には福井で技術を考えるフォーラムを開き、今回はこれを総括する最も大事なフォーラム。維持管理を支える技術の構築と人材育成に向けて、未来も見据え、明日からの心構えと行動をみんなで決めたい」とあいさつ。

中村光名古屋大学教授の基調講演に続き、初の取組となる学生セッション「私たちが考えるコンクリート構造物の未来のすがた」では、富山県立大学の伊藤始教授をコーディネーターに学生が意見を発表した。

金沢・福井フォーラムの報告と富山県自治体、大学による維持管理への取組紹介の後、パネルディスカッション「これからの維持管理を支える技術と人材に何が必要か」も実施。コーディネーターは、富山県コンクリート診断士会の森直生副会長が務め、パネラーとして中村氏、富山大学の河野哲也准教授、県土木部の吉岡浩二課長、富山市の植野芳彦氏、石川県診断士会の古川博人会長、福井県診断士会の山川博樹会長が参加した。鳥居和之金沢大学特任教授の講評後、富山県診断士会の安川榮志会長が閉会あいさつを述べた。